

公益財団法人にいがた文化の記憶館

平成 27 年度 事業報告書

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

1. 概況

展示事業 27 年度は企画展示 5 本と新潟市會津八一記念館特別展（貸館）1 本の 6 本の事業を行いました。6 本での入館者総数は 6,476 人（前年比 82.8%、うち有料 3,978 人）でした。5 本の企画展示の入館者総数は 4,363 人（有料 2,558 人）でした。

I. 「にいがたの歌と音楽」

平成 27 年 4 月 14 日（火）～ 5 月 31 日（日） 42 日間

入館者数 463 人（うち有料 98 人）

※開始日を 4 月 7 日（火）から 14 日（火）に延期。4 月 7 日（火）から 4 月 12 日（日）までは常設展示のみで開館。

II. 「良寛の書と敬慕者たち」

平成 27 年 6 月 6 日（土）～ 7 月 26 日（日） 44 日間

入館者数 509 人（うち有料 255 人）

III. **貸館** 新潟市會津八一記念館特別展「書之美ヒストリア」第 2 会場として貸し出し 「新潟と東アジアの近現代の書」

平成 27 年 8 月 1 日（土）～9 月 9 日（水） 35 日間

IV. 「岡倉天心とにいがたの画家 小山正太郎・尾竹兄弟・小林古径」

平成 27 年 9 月 19 日（金）～ 11 月 29 日（日） 62 日間

入館者数 867 人（うち有料 385 人）

V. 「パリの落谷虹児」

平成 27 年 12 月 5 日（土）～ 平成 28 年 2 月 14 日 56 日間

入館者数 1,987 人（うち有料 1,532 人）

VI. 「佐渡の兄弟」

平成 28 年 2 月 27 日（土）～ 4 月 17 日（日） 44 日間（うち 28 年度内の展示日数 15 日間）

入館者数 537 人（うち有料 288 人）

これら企画展で 36 人の文化人を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。

教育普及事業 26 年度から続く定例の作品解説会「月いちレクチャー」（原則：毎月第 4 土曜開催）に加えて、5 本の企画展示関連事業を開催しました。参加者総数は 721 人（前年比 115.5%）で、内訳は「月いちレクチャー」が 195 人（前年比 165.2%）、関連事業は 526 人（前年比 103.9%）でした。27 年度新規事業としては、中学生の職場体験受け入れを行いました。館外では、新聞等への寄稿、館長や事務局長による講演活動を行いました。

連携・交流事業 27年10月に第3回ネットワーク協議会を開催。参加者と連携のあり方を協議しました。企画の早期策定と連携の仕組み作りが急がれることを確認しました。

調査及び研究・研修事業 副読本活用にむけて、新潟県教育庁主催の「夢創造ナビゲーションサミット」に参加し、県でのキャリア教育の進め方を学んできました。また、新潟県博物館協議会主催の研修旅行に参加し、他館職員と交流しました。

広報 広報不足と遅れが課題として残っていますが、今年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NSTの3団体から助成または共催をいただき、10月から新聞広告やテレビCM、ラジオCMなどの広報展開を始めました。

2. 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	うち有料	普及事業参加者総数
274日／366日間	92日／366日間	6,476人 (※新潟市會津八一記念館特別展入場者数を含む)	3,978人	721人 (作品解説会および企画展示関連事業)

※平成26年度実績：開館日292日間 入館者総数7,818人 普及事業参加者総数624人

※27年度の当館企画展示のみの入場者数は4,363人（うち有料2,558人）。

※企画展示「にいがたの歌と音楽」の開始日が4月7日（火）から4月14日（火）に延期したため、4月7日（火）から4月12日（日）までは常設展示のみで開館。（当期の入館者数は180人）。

3. 展示事業

① 常設展示

ケル	テーマ名	会期	開催日数	備考
前期	①医学、②中国学、③美術、④文学	4/7(火) ～9/9(日)	127	
後期Ⅰ	①美術、②新潟の女性たち、③医学、④文学	9/19(土) ～28/2/14(日)	118	※これまでの個人パネルとの連動展示から、企画展にあわせたテーマ展示に変更
後期Ⅱ	①反骨の系譜、②新潟の女性、③医学、④美術	28/2/27(土) ～28/4/17(日)*	44*	※企画展にあわせて関連図の展示替えを行い、企画展に沿ったテーマ展示に変更 *開催日数44日間のうち、28年度内の展示日数は15日間
通年	文化勲章（9名）	4/7(火) ～28/3/27(日)	274	※資料の展示替えを6月、9月、12月に実施 ※平成26年文化功労者に選ばれた小池和男氏の紹介パネルを増設（10名→11名）
	文化功労者（11名）			
	人間国宝（5名）			

② 企画展示

I 「にいがたの歌と音楽」

会 期	平成 27 年 4 月 14 日 (火) ～ 5 月 31 日 (日) 42 日間 ※4 月 7 日 (火) からの開始日を上記のとおり変更
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日報社
共 催	新潟日報美術振興財団
趣 旨	童謡や唱歌には新潟県ゆかりの歌人や詩人が作詞、または音楽家が作曲し、今も愛唱されている歌が多くある。北陸新幹線上越妙高駅で「夏は来ぬ」(小山作之助作曲)、糸魚川駅で「春よ来い」(相馬御風作詞)が発車メロディに採用されている。また 27 年は吉田千秋が作曲した、「琵琶湖周航の歌」の原曲として知られる「ひつじぐさ」が発表されて 100 年目を迎えた。本展では、新潟ゆかりの童謡・唱歌の関連資料や、民謡「佐渡おけさ」を五線譜に表わした斎藤正直の業績と資料も紹介した。開催中にコンサートを行った。
紹介文化人	相馬御風(糸魚川市、「春よ来い」「カチューシャの唄」)、小山作之助(上越市、「夏は来ぬ」)、瓜生繁子(佐渡市、東京音楽学校講師)、斎藤正直(新潟市、「佐渡おけさ」採譜)、犬童球溪(新潟市、「旅愁」)、吉田千秋(新潟市、「ひつじぐさ」)、新津恒吉(新潟市、新潟市公会堂寄贈者)、宮崎郁芳(柏崎市、「金色夜叉」)、遠藤実(新潟市)、落谷虹児(新発田市、「花嫁人形」)、大和田愛羅(村上市、「汽車」)、旗野十一郎(阿賀野市、「港」)、江間章子(上越市、「夏の思い出」)
連携施設等	糸魚川歴史民俗資料館(相馬御風記念館)、上越市教育委員会、学校法人二葉幼稚園、吉田文庫、ちあきの会(吉田千秋顕彰会)、遠藤実記念館実唱館、阿賀野市立吉田東伍記念博物館、新潟県立図書館
展 示	県内の顕彰施設や団体、図書館などから資料を借用して 40 点を展示。あわせて、ちあきの会から解説パネルや千秋作曲の讚美歌が収録された IC レコーダーを借りて聴いてもらった。
関連事業	① コンサート「にいがたの歌と音楽 ～唱歌と童謡を中心に～」 参加者数：152 人 開催日：4 月 23 日 (木) 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール 出演：コーラスおおがた(上越市、卯の花音楽祭運営団体)、Coro Murecci(新潟市、「花嫁人形」合唱コンクール入賞者)、柳本幸子氏(ソプラノ歌手)、奥村和雄(ヴァイオリン)、経麻朗(ギター)、石山響一郎(電子ピアノ) ② 月いちレクチャー「吉田千秋」、「小山作之助」 参加者総数：17 人 開催日：4 月 25 日 (土)、5 月 23 日 (土) 会場：にいがた文化の記憶館 担当：石垣雅美
広 報	・チラシ(A4、両面モノクロ、割引券付)1,000 部(メディアシップ館内のみ設置) ・ホームページ：当館
掲載記事	4 月 24 日(金) 新潟日報 朝刊「伸びやかな歌声 観客魅了 新潟 市民コーラスグループが地元唱歌披露」 4 月 2 日(木) 新潟日報 夕刊「知ってる?!この人<39> 小山作之助」 4 月 9 日(木) 新潟日報 夕刊「知ってる?!この人<40> 吉田千秋」 4 月 16 日(木) 新潟日報 夕刊「知ってる?!この人<41> 遠藤実」 5 月 21 日(木) 新潟日報 夕刊「知ってる?!この人<46> 斎藤正直」 5 月 28 日(木) 新潟日報 夕刊「知ってる?!この人<47> 村田文三」
入館者数	463 人(うち有料98人) ※目標人数 1,000 人
総 括 (展示全般 および地域 への関わり と効果など)	○評価点 ・あまり知られることのない新潟の文化人と唱歌、童謡を楽譜などと共に紹介することができた。また、江間章子など県内でもあまり知られていない先人を発掘できた。 ・アンケートには「5歳のころから歌っています。今日はとても素晴らしい展示ありがとうございました。楽しかったです。」「企画展示は音の出る素材がもう少しあると、楽しめると思いました」などの意見をいただいた。 ■検討課題 ・展示準備が遅れて開始日が延期となってしまった。そのため、チラシ作成が出来ず、簡易チラシを館内に設置するのみだった。 ・出演者の皆様のおかげでコンサート参加者に満足いただけましたが、担当の事前準備が悪く、告知が遅れて出演者にご迷惑をかけた。
担 当	石垣 雅美

II 「良寛の書と敬慕者たち」

会 期	平成 27 年 6 月 6 日（土）～ 7 月 26 日（日） 44 日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日報社
共 催	新潟日報美術振興財団
協 力	全国良寛会、新潟良寛会
趣 旨	平成 27 年 6 月の全国良寛会新潟大会開催をきっかけとして、本展を企画。近・現代の文人の理想・良寛さまの周辺を、関連資料 29 点とパネルで紹介した。会期中に、全国良寛会会長の長谷川義明氏を講師に迎えての特別講演と良寛に因んだ曲「貞心恋し」などを中心としたミニコンサート（出演：柳本幸子氏）を開催。定例の月いちレクチャーでは、特別編として良寛研究家の小島正芳氏を講師に迎えた。
紹介文化人	良寛（出雲崎町）、相馬御風（糸魚川市）、會津八一（新潟市）、堀口大學（長岡市）
連携施設等	全国良寛会、新潟良寛会、糸魚川歴史民俗資料館（相馬御風記念館）
展 示	県内の顕彰施設や団体から借りた資料 29 点を展示。
関 連 事 業	① 特別講演「良寛さまに学ぶ」＋ミニコンサート 参加者数：115 人 開催日：6 月 11 日（日） 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール 講師：長谷川義明氏（全国良寛会会長） 出演：柳本幸子氏（ソプラノ歌手） ② 月いちレクチャー特別編「良寛の敬慕者たち」 参加者総数：80 人 開催日：6 月 20 日（土）、7 月 25 日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 講師：小島正芳氏（良寛研究家）
広 報	・チラシ（A4、両面モノクロ、割引券付）9,000 部（県内顕彰施設や図書館などに発送） ・ホームページ：当館
掲 載 記 事	6 月 10 日（水）新潟日報朝刊「良寛さまに学ぶ」あす新潟で講演会 6 月 11 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<49> 良寛」 6 月 18 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<50> 相馬御風」
入 館 者 数	509 人（うち有料 255 人） ※目標人数 1,200 人
総 括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	○評価点 ・新潟市で開催された全国良寛会新潟大会に合わせた展示で、県内外の良寛に関心のある来館者を取り込むことができた。また良寛会の配布資料に、当企画展のチラシを入れてもらい、館の PR ができた。 ・月いちレクチャーに外部講師を招くことで、レクチャー参加者の増加がなかった。 ・展示内容としては、明治から昭和にかけて発行された良寛研究書の初版など、他の良寛展であまり出ない珍しい資料を展示し、来館者に好評だった。 ・講演会は概ね好評で、イベントアンケートでは「大変わかりやすい講演で良寛の偉大さを知りました。今まで知らなかったことが非常に残念で惜しい気がしました。」などの意見があった。 ■検討課題 ・全体的に地味な展示となった。映像を取り入れるなどの工夫をすべきだった。 ・全国良寛会の大会に合わせたのが、根回し不足で他の良寛顕彰施設との連携が取れなかった。そうしたこともあり、来館者数を伸ばすことができなかった。
担 当	秋岡 啓子

IV 「岡倉天心とにいがたの画家 小山正太郎・尾竹兄弟・小林古径」

会 期	平成 27 年 9 月 19 日（金）～ 11 月 29 日（日） 62 日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST
趣 旨	「第 20 回天心サミット」が新潟日報メディアシップで開催されることを契機に企画。関連事業「天心フォーラム」では神林館長がコーディネーターを務めた。妙高市赤倉に別荘を建て、同地で終焉を迎えた岡倉天心と、新潟出身で、天心と因縁のあった洋画家小山正太郎や日本画家尾竹兄弟、小林古径らの業績を振り返った。会期中には美術の相関図を中心とした館長講演会と月いちレクチャーを開催した。
紹介文化人	岡倉天心（妙高市）、小山正太郎（長岡市）、尾竹兄弟（新潟市）、小林古径（上越市）
連携施設等	小林古径美術館、潟東歴史民俗資料館、新潟大学旭町学術資料展示館、長岡市立阪之上小学校伝統館、にいがた妙高岡倉天心顕彰会
展 示	県内顕彰施設などから日本画などの作品や資料 20 点を借用。 うち、以下 4 点の作品を新潟日報紙面（パスポート募集欄）に掲載した。 10 月 7 日（水）尾竹越堂《旅順口攻撃浅川大尉奮戦図》、14 日（水）小林古径《郁子（習作）》、21 日（水）小山正太郎《里の雪》、28 日（水）岡倉天心《手紙》
関 連 事 業	① メディアシップ×にいがた文化の記憶館 ～美術の秋！～ 参加者数：109 人 「近代日本美術とにいがたの画家」 開催日：10 月 30 日（金） 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール 講師：神林館長 ② 月いちレクチャー 参加者総数：43 人 「岡倉天心と小山正太郎」、「岡倉天心と尾竹兄弟」、「岡倉天心と小林古径」 開催日：9 月 26 日（土）、10 月 24 日（土）、11 月 28 日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：秋岡啓子
広 報	・チラシ（A4、片面カラー・モノクロ、割引券付）10,000 部（県内顕彰施設や図書館などに発送） ・テレビ CM：NST ・ラジオ：BSN ラジオ（9 月 29 日放送） ・ホームページ：当館、メディアシップ施設、BSN、NST イベント、新潟文化物語（新潟県文化振興課）
掲 載 記 事	9 月 24 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<64> 小山正太郎」 9 月 25 日（金）新潟日報朝刊「メディアシップ 天心の功績発信 来月 4 日フォーラム 参加者募集」 10 月 1 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<65> 岡倉天心」 10 月 5 日（月）新潟日報朝刊「伝統美術深く見つめて 新潟・岡倉天心フォーラム」 10 月 8 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<66> 尾竹竹坡」 10 月 11 日（日）新潟日報朝刊「伝統美術再興に一念 天心フォーラム 詳報」 10 月 28 日（水）新潟日報朝刊「尾竹 3 兄弟と天心の縁解説 文化の記憶館」 11 月 5 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<70> 尾竹国観」
入 館 者 数	867 人（うち有料385人） ※目標人数 1,300 人
総 括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	○評価点 ・「岡倉天心とにいがたの画家」という大きなテーマに合わせ、小山、尾竹兄弟、古径それぞれの本画を飾ることができ、限られた展示スペースにふさわしいまとまった展示ができた。 ・10 月 3～4 日にメディアシップで開催された「天心サミット in 新潟」に協力することで、同イベントの会場にポスターを掲示するなど広報アピールができた。また、これまで「にいがた文化ネットワーク協議会」に未参加だった赤倉の天心顕彰会と連携が取ることができた。それにより、赤倉観光協会より副読本 32 冊購入してもらった。 ・作品解説会のアンケートには「古径の鉛筆による写実的な画、古径の『加賀鷹』から、信貴山絵巻へ『大仏』のつながりがわかった」などの声があった。 ■検討課題 ・神林館長の専門である「美術」をテーマにした講演が好評だったので、会期中に何回かのシリーズとして行えるよう準備すべきだった。
担 当	秋岡 啓子

V 「パリの落谷虹児」

会 期	平成 27 年 12 月 5 日（土）～ 28 年 2 月 14 日（日） 56 日間 ※1 月 31 日（日）までの会期を上記のとおり延長
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日報社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST
後 援	新発田市、落谷虹児記念館
趣 旨	平成 27 年 5 月にパリにて落谷虹児の回顧展「Rétrospective de Kôji Foukiya à Paris」が開催された。同年 9 月には新発田市の落谷虹児記念館で凱旋展を開催。上記の展覧会で展示した作品や資料などを中心に、虹児の業績、特にパリ時代の作品や資料を紹介した。会期中に館長講演および落谷虹児記念館名誉館長の落谷龍夫氏と神林館長の対談を行った。
紹介文化人	落谷虹児（新発田市）、尾竹竹坡（新潟市）、吉屋信子（新潟市）、石黒敬七（柏崎市）、藤蔭静樹（新潟市）
連携施設等	落谷虹児記念館、新潟県立図書館、新潟市中央図書館
展 示	パリ時代の作品や挿絵を中心に 59 点展示（一部作品は展示替え）。本展にあわせて相関図「落谷虹児と抒情画の画家」も作成して、落谷虹児のパリでの交友関係を紹介した。落谷虹児記念館紹介コーナーも設置した。 展示作品のうち、以下の 10 点を新潟日報紙面（パスポート募集）にて紹介。 12 月 2 日(水)《異国の友と》、9 日(水)《ノエールの夜》、 16 日(水)《巴里流行通信 今年の外套》、23 日(水)《混血児とその父母》 1 月 6 日(水)《椿》、13 日(水)《旅の絵だより出帆 I》、 19 日(火)『花物語』、27 日(水)《はまちどり》 2 月 3 日(水)《仏蘭西絵だより 異国人形》、10 日(水)《胡蝶の夢》
関 連 事 業	① 館長講演「抒情画の系譜」、 館長対談「パリの落谷虹児／落谷虹児のパリ」 参加者数：100 人 開催日：1 月 10 日（日） 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール ゲスト：落谷龍夫氏（落谷虹児記念館名誉館長） 聞き手：神林館長 ② 月いちレクチャー「落谷虹児」、「吉屋信子」 参加者総数：15 人 開催日：12 月 26 日（土）、1 月 23 日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：石垣雅美
広 報	・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000 部（県内顕彰施設や図書館などに発送） ・新聞広告：新潟日報 ・テレビ CM：NST ・ラジオ：BSN ラジオ(12 月 4 日)、コミュニティ FM しばた(1 月 6 日)、FMPORT(1 月 8 日) ・ホームページ：当館、メディアシップ、NST イベント、新潟文化物語（新潟県文化振興課）
掲 載 記 事	12 月 6 日（日）新潟日報朝刊「パリの落谷虹児 活躍の足跡紹介 文化の記憶館」 12 月 10 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<75> 落谷虹児」 12 月 19 日（土）信濃毎日新聞朝刊「画家の落谷虹児 業績紹介の展示 新潟市で企画展」 1 月 7 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<78> 石黒敬七」 1 月 7 日（木）新潟日報夕刊「メディアシップ今週のイベント 館長対談」
入 館 者 数	1, 9 8 7 人（うち有料 1, 5 3 2 人） ※目標数 1,700 人
総 括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	○評価点 ・落谷虹児の知名度もあるが、新聞広告やテレビ CM、ラジオなど広報展開をしたことで、初めて来館されたと思われる方が多くいた。この企画展示で、落谷虹児と当館を知ってもらいきっかけになったようだ。 ・「新春展 2016」半券提示での割引利用は 104 名であった。新春展会場でチラシを見た来館者が多かった。 ・アンケートでは「落谷虹児の事だけでなく、虹児の周りの画家・詩人のこともわかりよかった」と好意的な意見もあったが、展示数が多くないため物足りないとの声もあった。 ■検討課題 ・来館者から落谷虹児記念館に比べて展示作品が少ないとの指摘があった。本展は現地へ足を運んでもらうための PR 展示だとの周知が開館当初から不足しているため、広報の必要性を再認識した。
担 当	石垣 雅美

VI 「佐渡の兄弟 一山本悌二郎・有田八郎、北一輝・吟吉、土田麦僊・杏村一」

会 期	平成 27 年 2 月 27 日（土）～ 4 月 17 日（日） 44 日間（うち 28 年度内の展示日数 15 日間） ※2 月 6 日（土）からの開始日を上記のとおり変更
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST
趣 旨	佐渡の文化や教育を大切にする風土に生まれた山本悌二郎・有田八郎、北一輝・北吟吉、土田麦僊・土田杏村の三兄弟は、近代日本の歴史に大きな足跡を残した。本展では、相関図も作成して、あらためて三組の兄弟の偉大な業績を見つめ直す展示とした。会期中には『佐渡郷土文化』主宰の山本修巳氏による講演会を実施した。
紹介文化人	山本悌二郎（佐渡市）、有田八郎（佐渡市）、北一輝（佐渡市）、北吟吉（佐渡市）、土田麦僊（佐渡市）、土田杏村（佐渡市）、司馬凌海（佐渡市）、久保田きぬ子（佐渡市）
連携施設等	佐渡市立佐渡博物館、相川郷土博物館、新穂歴史民俗資料館、佐渡郷土文化、北一輝・吟吉両先生彰徳碑建設会、知足美術館
展 示	佐渡博物館、知足美術館、顕彰団体などから 37 点を借りて展示。あわせて、3 組の兄弟の相関図も作成し、展示資料とともにご覧いただけるようにした。あわせて、佐渡博物館、相川郷土博物館、新穂歴史民俗資料館の施設紹介パネルも作成。佐渡博の施設紹介は出品目録の余白に付け加えて来館者に渡した。
関連事業	① 講演会「佐渡の三兄弟」 参加者数：50 人 開催日：3 月 20 日（日） 会場：メディアシップ 6 階 ナレッジルーム 講師：山本修巳氏（『佐渡郷土文化』主宰） ② 月いちレクチャー「山本悌二郎と有田八郎」、「土田麦僊と杏村」参加者総数：15 人 開催日：2 月 27 日（土）、3 月 26 日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：石垣雅美
広 報	・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000 部（県内顕彰施設や図書館などに発送） ・新聞広告：新潟日報に掲載 ・テレビ CM：NST ・ホームページ：当館、メディアシップ、NST イベント
掲載記事	2 月 25 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<84> 土田麦僊」 3 月 3 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<85> 山本悌二郎」 3 月 10 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<86> 土田杏村」 3 月 11 日（金）新潟日報朝刊「日本画家土田麦僊ら『佐渡の三兄弟』講演 20 日、メディアシップ」 3 月 17 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<87> 有田八郎」 3 月 24 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<88> 北一輝」 3 月 29 日（火）新潟日報朝刊「窓（有田先生との縁誇らしく）」 3 月 31 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<89> 益田孝」 4 月 7 日（木）新潟日報夕刊「知ってる?!この人<90> 北吟吉」
入館者数	537 人（うち有料 288 人） ※目標人数 1,200 人
総括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	○評価点 ・佐渡市教育委員会の協力のもと、現地以外で見ることのない有田八郎や土田杏村の資料などを展示できた。 ・本展準備にあたり、北一輝など紹介文化人の調査ができた。 ・アンケートでは「以前、北一輝に関する講演会がメディアシップであったが、同じような内容の講演を聞きたい」などの声があった。 ■検討課題 ・展示準備が進まず、メディアシップ 20 階にある佐渡市 PR コーナーなどとの連携ができなかった。 ・企画展担当が続いたため、事前準備が遅くなってしまった。 ・二・二六事件から 80 年の節目の年であったが、事前調査が足らずに翌 27 日開催に変更してしまった。
担 当	石垣 雅美

4. 教育普及事業

① 作品解説会「月いちレクチャー」（参加者総数：195人） ※26年度実績：118人

ケル	事業名	開催日	内容	参加人数
I	「吉田千秋」	4/25(土)	担当：石垣 雅美	11人
	「小山作之助」	5/23(土)	担当：石垣 雅美	6人
II	「良寛と敬慕者たち①」	6/20(土)	講師：小島 正芳氏（良寛研究家）	30人
	「良寛と敬慕者たち②」	7/25(土)	講師：小島 正芳氏（良寛研究家）	50人
III	「東アジアの書と會津八一」	8/22(土)	講師：角田 勝久氏（新潟大学准教授）	25人
IV	「岡倉天心と小山正太郎」	9/26(土)	担当：秋岡 啓子	5人
	「岡倉天心と尾竹兄弟」	10/24(土)	担当：秋岡 啓子	16人
	「岡倉天心と小林古径」	11/28(土)	担当：秋岡 啓子	22人
V	「落谷虹児」	12/26(土)	担当：石垣 雅美	7人
	「吉屋信子」	1/23(土)	担当：石垣 雅美	8人
VI	「山本悌二郎と有田八郎」	2/27(土)	担当：石垣 雅美	2人
	「土田麦僊と杏村」	3/26(土)	担当：石垣 雅美	13人

② 企画展示関連事業（参加者総数：526人） ※26年度実績：506人

ケル	事業名	開催日	内容	参加者数
I	コンサート「にいがたの歌と音楽～唱歌と童謡を中心に～」	4/23(木)	出演：コーラスおおがた（上越市、卯の花音楽祭運営団体）、Coro Murecci（新潟市、「花嫁人形」合唱コンクール入賞）、柳本幸子（ソプラノ）、奥村和雄（ヴィオラ）、経麻朗（ギター）、石山響一郎（電子ピアノ） 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	152人
II	特別講演「良寛さまに学ぶ」＋ミニコンサート	6/11(木)	講師：長谷川義明氏（全国良寛会会長） 出演：柳本幸子氏（ソプラノ） 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	115人
IV	アートコミュニケーション2015 メディアシップ×にいがた文化の記憶館～美術の秋！～ 「近代日本美術とにいがたの画家」	10/30(金)	講師：神林館長 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	109人
V	①館長講演「抒情画の系譜」 ②館長対談「パリの落谷虹児／落谷虹児のパリ」	1/10(日)	①講師：神林館長 ②ゲスト：落谷龍夫氏（落谷虹児三男、落谷虹児記念館名誉館長） 聞き手：神林館長 ①②会場：メディアシップ 2階 日報ホール	100人
VI	講演会「佐渡の三兄弟」	3/20(日)	講師：山本修巳氏（『佐渡郷土文化』主宰） 会場：メディアシップ 6階 ナレッジルーム	50人

③ 学校との連携事業

事業名	期間	内容
職場体験受け入れ （宮浦中学校2年生5名） ※新潟日報社が受け入れた際にメディアシップ内施設として対応	9月29日(火) ～30日(水)	[29日] BSN ラジオ取材見学、当館見学、副読本販売用ポップ案作成・講評、受付業務体験、チラシ発送作業補助 [30日] 模擬取材対応

④ その他事業（執筆活動、講演会など）

■ 執筆活動

No.	タイトル・掲載時期	掲載日	内容	執筆者
1	新潟日報朝刊寄稿 「統一地方選に寄せて 文化の自覚 地方創生を促す 活性化の土壌に思い を」	4月7日	統一地方選スタートにあわせて、 文化と地方創生をテーマに 執筆	神林館長
2	フリーペーパー『喜怒哀楽』連載寄稿 「にいがた文化の記憶館便り」	4月、6月、 8月、10月、 12月、2月	企画展示 I～VIの紹介に合わせ、 当該展示で採り上げた新潟 ゆかりの文化人について解説	秋岡 啓子
3	新潟フランス協会会報誌「Bonjour (ボンジュール)」寄稿 「パリの落谷虹児」	9月	企画展示「パリの落谷虹児」を紹介	石垣 雅美
4	新潟日報夕刊連載 (51回) 「にいがた文化の記憶館 知ってる?! この人」	通年 (毎週木曜)	小山作之助、吉田千秋、遠藤実、 石黒忠恵、牧野虎雄、大橋佐平、 阿部展也、斎藤正直、村田文蔵、 高橋誠一郎、良寛、相馬御風、天 田昭次、井上圓了、入澤達吉、鈴 木文臺、長谷川巳之吉、式場隆三 郎、倉石武四郎、館柳湾、生田萬、 星野恒、安宅安五郎、青野季吉、 池田恒雄、小山正太郎、岡倉天 心、尾竹竹坡、荻野久作、石田吉 貞、岩田正巳、尾竹国観、松岡譲、 大庭みな子、渡辺萬寿太郎、増村 朴斎、落谷虹児、石山賢吉、富岡 惣一郎、石黒敬七、池田謙斎、長 谷川天溪、玉川宣夫、伊藤誠哉、 中田瑞穂、土田麦僊、山本悌二 郎、土田杏村、有田八郎、北一輝、 益田孝 (掲載順)	秋岡 啓子 石垣 雅美

■ 講演会など（参加者総数：985人、前年比112.9%増） ※26年度実績：872人

No.	事業名	開催日	内容	参加者数
1	第31回民族芸術学会 テーマ発表 「雪の芸術と文化 『北越雪譜』と『トミ オカホワイト』」	4月25日	発表者：神林館長 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	45人
2	新潟県文化財保護連盟 平成27年度定期 総会記念講演 「伝えよう 新潟の文化力」	6月4日	講師：高橋理事 会場：じょいあす新潟会館	30人
3	新潟大学人文・法・経済学部同窓会 特別講演「會津八一と新潟の文化 ～そし て越の学び舎と～」	7月4日	講師：神林館長 会場：新潟東映ホテル	110人
4	平成27年度関東甲信越医師会連合会定例 大会 特別講演「新潟の医学と文人医師の伝統」	9月26日	講師：神林館長 会場：ANA クラウンホテル	230人
5	第20回 天心サミット in 新潟 「天心フォーラム 日本の美 再発見」	10月4日	コーディネーター：神林館長 登壇者：宮田亮平氏（東京藝術 大学学長）、大野玄妙師（法隆寺 管長）、小宮浩氏（文化財保護藝 術助成財団専務理事）、小田敏	190人

			三氏（新潟日報社社長） 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	
6	にいがた偉人伝シンポジウム 「近代日本をつくった男 郵便制度の父 前島密に学ぶ」 (主催：BSN 新潟放送)	2月21日	パネリスト：神林館長、井上卓朗氏 (郵政博物館主席資料研究員)、堀井靖功(郷土の偉人“前島密翁”を顕彰する会会長)、坂井悠紀(BSN 上越支社記者・ディレクター) 会場：だいしホール	250人
7	亀田福寿大学 講演「市島春城」	2月24日	講師：武藤事務局長 会場：亀田市民会館	70人
8	新潟市立新津第一中学校 保体・教養部主催講演会「新潟の偉人に学ぶ 石塚三郎と野口英世の友情」	2月27日	講師：武藤事務局長 会場：新津第一中学校	60人

④副読本の発行

書名	『みんなで伝えよう にいがた文化の記憶』		
発行日	平成27年7月	販売価格	1,500円(税込)
対象	中学1～2年生	販売場所	当館および県内主要書店など
コンセプト	近現代日本の文化をつくった新潟ゆかりの人物を学ぶ		
紹介文化人 (109名、五十音順)	藍澤南城、會津八一、青野季吉、青山杉作、赤沢鍾美、浅島誠、天田昭次、池田謙斎、池田恒雄、石黒忠恵、石田名香雄、石田吉貞、石塚三郎、市島謙吉、伊藤誠哉、伊藤赤水、井上圓了、入澤達吉、岩田正巳、内山賢次、瓜生繁子、遠藤実、大倉喜八郎、大杉栄、大庭みな子、大橋佐平、岡倉天心、岡田紅陽、小川未明、小川亮作、荻野久作、小田嶽夫、尾台榕堂、尾竹竹坡、小野塚喜平次、小柳司氣太、桂湖村、金子健二、金子彦二郎、亀倉雄策、川上善兵衛、川田芳子、北一輝、久保田きぬ子、倉石武四郎、小池和男、小唄勝太郎、小金井良精、小林古径、小林虎三郎、小山作之助、小山正太郎、近藤喜文、坂口安吾、坂口謹一郎、坂口仁一郎、佐々木象堂、式場隆三郎、司馬凌海、清水司、杉本鉞子、鈴木虎雄、鈴木文臺、鈴木牧之、関野貞、相馬御風、高橋誠一郎、建部遯吾、田中耕太郎、田中美知太郎、玉川宣夫、土田杏村、土田麦僊、富岡惣一郎、中田瑞穂、中村十作、並河成資、西脇順三郎、長谷川海太郎、長谷川泰、長谷川巳之吉、原久一郎、平出修、平澤興、落谷虹児、藤蔭静樹、星野恒、堀口大學、前島密、巻菱湖、増田義一、益田孝、増村朴斎、松岡讓、三浦小平二、水島あやめ、三波春夫、宮柊二、三輪晁勢、諸橋轍次、屋井先蔵、山岡莊八、山本悌二郎、横山操、吉田東伍、吉屋信子、良寛、鷺尾雨工、渡邊義雄		

5. 連携・交流事業

① にいがた文化ネットワーク協議会の開催

項目	内容
第3回会議	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日：平成27年10月29日(木) ・会場：メディアシップ 6階 ナレッジルームA ・議題：平成26年度事業報告および平成27年の事業計画 にいがた文化ネットワーク協議会運営、協力体制について 当館の特別展の見学
機関誌の発行	<ul style="list-style-type: none"> ・誌名：「にいがた文化」創刊号 ・発行：平成28年3月 ・内容：全12頁 表紙：落谷虹児《異国の友と》(「パリの落谷虹児展」報告)、 発刊にあたって(館長あいさつ)、

	にいがた文化の記憶館 事業報告、 寄稿「法律と文学の両道を歩んだ平出修」平出洸氏（平出修研究会主宰）、 平成 28 年度おすすめの企画展および近況（イベントスケジュール）、 平成 25～27 年企画展協同した顕彰館・団体の紹介、 にいがた文化の記憶館 平成 28 年度展示のご案内、あとがき にいがた文化ネットワーク協議会の活動、お知らせ、利用案内
--	---

6. 調査及び研究・研修事業

■ 研修

No.	研修名	研修日	参加者
1	新潟県教育委員会主催「夢創造ナビゲーションサミット」	10/28(水)	高岡 信也 秋岡 啓子 石垣 雅美
2	新潟県博物館協議会「平成 27 年度学芸員等職員研修会」	11/5(木)～11/6(金)	外山 陽子
3	新潟県立文書館主催「はじめての古文書講座〈冬季〉」	12/4(金)、11(金)、18(金)	石垣 雅美

※その他、当館紹介文化人に関連する講演会などにも学芸員らが参加した。

■ その他

No	名 称	期 間	担当者
1	旧笹川家住宅保存活用計画策定検討委員会 公募委員	27/7/1～29/3/31	石垣 雅美

7. 広報

① 新聞掲載記事一覧（企画展示関連記事をのぞく）

No	掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
1	新潟日報	6/23(火)	「にいがた文化の記憶館 維持会創設 会員を募集」	—
2	新潟日報	7/24(金)	「109 人の業績伝えよう 郷土の偉人『入門書』刊行」	—
3	新潟日報	11/29(日)	「にいがたの一冊 自主独立の魂で新時代築く 神林恒道監修 みんなで伝えよう にいがた文化の記憶」	藤沢 周 氏
4	新潟日報	2/22(月)	「話かご（前島密シンポジウム）」	—

※新潟日報夕刊「知ってる!?!この人」（毎週木曜、51 回）を学芸員 2 人が執筆。（参照「3.教育普及事業 ④その他事業 ■執筆活動」）

② テレビ・ラジオ放送一覧（企画展示関連を含む）

No	局名	放送日	番組名	内容
1	NST	8/8(土)	スマイルスタジアム	副読本『みんなで伝えよう にいがた文化の記憶』紹介
2	BSN ラジオ	9/29(火)	近藤丈靖の独占ごきげんアワー	「岡倉天心とにいがたの画家」展紹介
3	BSN ラジオ	12/4(月)	午後一番すっきりワイド in メディアシップ	「パリの露谷虹児」展紹介
4	エフエムしばた	1/6(水)	ごきげんラジオ 769 メディアシップ・クルーズ	メディアシップ内イベントとして「パリの露谷虹児」展紹介とイベント告知
5	FM PORT	1/8(金)	Switch!	記憶館および「パリの露谷虹児」展紹介
6	エフエムしばた	3/16(水)	ごきげんラジオ 769 メディアシップ・クルーズ	メディアシップ内施設として記憶館の紹介、「佐渡の兄弟」展紹介

③ パスポート会員・維持会員募集広告掲載一覧

掲 載 紙 名	新潟日報 地域欄
掲 載 日	毎週水曜
掲載した文化人 (24人、掲載順)	矢部友衛、寿々木米若、大野耻堂、赤沢鍾美、大矢黄鶴、金子彦二郎、桂湖村、星野恒、倉石武四郎、平澤興、高野素十、増村朴斎、山下清、堀桃坡、水島あやめ、石黒忠恵、清水泰次、2代目三遊亭円歌、石黒敬七、杉捷夫、大橋新太郎、近藤喜文、泉田玉堂、岡田紅陽(掲載順)

※新潟日報朝刊(毎週水曜)で「パスポート会員募集」と顕彰人物を紹介。10月以降は「維持会員募集」(5月～12月に掲載)と「パスポート会員募集」(1月～4月に掲載)と企画展示資料を紹介。

8. 事業別評価

事業名	評価点 (○)	改善点 (▲)・今後の課題 (■)
展 示	常設展示 (相関図)	○関連資料展示を個人紹介パネル毎の展示から、企画展にあわせてテーマを設定する連動型に変更した。それにより展示スペースが確保でき、展示資料数を増やせた。 ▲資料の展示を企画展と連動したテーマ展示に変更した。それにあわせて案内パネルを設置した。 ■企画展示と常設展示で資料が散逸して来館者が鑑賞しにくいため、展示室の導線案内など工夫が必要である。
	企画展示	○27年度は周年や記念イベント等にあわせて企画したことで、当館単独企画とは異なり大きなイベントのひとつに組み入れることができた。 ■26年度の富岡惣一郎展のような協同企画展示ができなかった。県内顕彰館や団体と連携できる仕組みを作る必要がある。 ■25年度からの課題だが、出展する顕彰施設や団体のPRが出来るよう、年間広報計画を立案し、早めに広報展開できるよう仕組みを作る必要がある。
教 育 普 及	イベント、 講演・解説	○「月いちレクチャー」の内容を企画展示と連動させた。そのためカリピーターが前年度に比べ増えている。 ○「月いちレクチャー」の内容により外部講師を招いたことで、参加者が増えた。 ○新潟日報メディアシップと連携してイベントを開催した。 ▲「月いちレクチャー」に外部講師を招いた。 ■全体的に広報が遅れたため、イベントによっては参加者の応募状況が芳しくなかった。企画展示同様に早い段階での広報展開できるよう仕組みづくりが必要。
	顕彰施設 及び団体 との連携	○各施設や団体よりパンフレット設置、画像提供等での協力を得た。 ○当館でのPR展示をきっかけに、少しずつだが、顕彰施設や団体との協力体制がとれるようになってきている。 ○ネットワーク協議会を通じて交流することで、情報交換ができるようになってきている。 ○25年度からの課題であった機関誌「にいがた文化」創刊号が発刊できた。 ■各施設や団体への連携や協力を仰ぐため、早めに依頼したり相談したりできるようスケジュールを立てる必要がある。 ■県内顕彰施設の来館者増を図るためのツール(印刷物など)の作成が必要。

副読本	<p>○遅くなったが、27年7月に副読本を発刊できた。</p> <p>○新潟県教育庁や新潟市教育委員会との連携で、副読本をPRできた。12月の校長会で副読本のPRができた。それにより、2月に武藤事務局長による講演会が開催された。</p>	<p>▲副読本と関連した企画展示「越後人のねばり」を準備した。</p> <p>■27年度中には副読本の活用までは進まなかった。引き続き、活用のための仕組みづくり、小・中学生の入館者数増加を目指した企画立案が課題。</p>
人物選定委員会	<p>○昨年度に引き続き、お客様からの選定のご意見を集約し、選定委員会に備えている。</p>	<p>■25年度から事業計画に挙がっているが、立上げ準備もできていない。29年度以降の発足を目指してスケジュール案を作成する。</p>
調査・研究	<p>○学芸および事務業務にかかる研修に参加したことで業務を遂行しやすくなった。</p> <p>○研修や顕彰会主催の講演会等に参加したことで、他団体との交流や情報交換ができた。</p>	<p>■昨年度に引き続き、文化人を調査し、データを蓄積するまではできなかったことが課題である。</p>
広報	<p>○県内の文化施設やギャラリー、図書館、観光関連施設、またメディアシップ内で行われるイベント等にポスター、チラシを設置してもらうことで幅広い層にアピールできた。</p> <p>○新潟日報夕刊連載「知ってる?! この人」でのイベント案内から参加申し込みなどがあつた。また担当デスクから読者からの好意的なご意見も届いていると聞いている。</p>	<p>■ホームページの更新が計画通りに進まなかった。定期的に更新ができるよう、職員間での仕組みづくりが必要。</p> <p>■PR展示と連動した、効果的な広報戦略の見直しが必要。</p> <p>■機関誌やホームページなど発信し続けることによる活動状況を普及させることが課題である。</p>